

ひざし

2018 4

No. 230



今回玉ねぎによるJGAP認証を受けた
水野農場、中川（悠）農場、篠原農場

上湧別地区の玉葱耕作者3戸がJGAP認証を取得しました

現在、消費者への安心安全の農畜産物の指針と日本の農畜産物のブランド化推進という時代の流れの中で、GAPへの取り組みが求められています。今年2月に上湧別地区の玉

葱耕作者3戸がGAPの日本版であるJGAPの認証を取得しました。

今回認証を受けたのは、湧別町北兵村一區の中川悠一農場、篠原健一農場、湧別町北兵村三区の水野晁農場の3戸。



整理が行き届いた農薬倉庫で在庫数を記帳する中川悠一さん

本人たちに取得した経緯等をうかがったところ、3年前に上湧別玉葱振興会青年部の勉強会で当時上川管内より網走農協改良普及センターに赴任した伊與田主任普及指導員からJGAPの話聞いたことがきっかけとなり、現在は市場から求められていないが、「耕作者として取り組まなければならぬこと」だと考え、最初に賛同した3人で先進的事例として取り組んだのが始まりとのこと。苦労した点では、申請にあたって農薬倉庫等の整理や自分たちの営農形態で使える審査書類をいちから作った点を挙げていて、認証試験を受けられるところま

で整理するのに約2年かかったそうです。

今後は、JGAPの取り組みをJAの選果場を含めた地域全体に広げていければと抱負を語っていました。中川菊夫JA組合長も「今回、JGAPの認証を取得した組合員が出たことは大変喜ばしく思う。JAとしても、消費者に対して農畜産物の見える安心安全の推進はもちろん、市場でJAえんゆの農畜産物に高い評価をもらうためにも今後積極的に推進していきたい」とJGAP認証取得に取り組んでいくことを話しました。

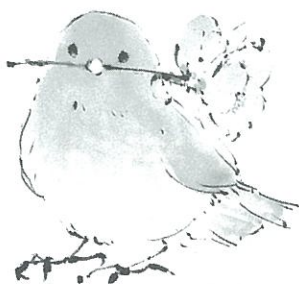
※GAPとは(グット・アグリカルチャー・プラクティス)の英語の頭文字をとったもので、直訳すると「良い農業のやり方」、農林水産省が日本語訳として「農業生産工程管理」と呼び、食の安全や環境保全に取り組む農場に与えられる認証です。何も特別なことに取り組む必要はないですが、普段、施肥や農薬の適正施用管理など、様々な生産工程を管理記録し、対外的にわかるようにすることが求められます。

JA職員がJGAP指導員資格を取得しました

先日、当JAの玉葱耕作者3戸がJGAP認証を取得しましたが、それとは別にJAのJGAPへの取り組み体制整備の一環として、昨年12月に北見市で開催された基礎研修に当JA職員1名が参加し、JGAP指導員資格を取得しました。

今後、様々な機会において、JGAPへの取り組みと手助けをおこなっていく予定であることをご報告申し上げます。

JGAP指導員資格取得者
本所農産課 石川 鉄也



「GAP」を知る No.1

J A えんゆう管内では、平成30年2月に3名の農業者が「J G A P」の認証を取得しました。農業分野で注目されている「G A P」とはどのようなものか、6回連載でお伝えします。

(一)「GAP」って?

「農業生産工程管理」とも呼ばれ、農産物を生産する現場において、農業者自らが生産工程全体を見渡し、①ルールを定め、②ルールに沿って農作業を実施・記録し、③記録を検証し、④次の生産に向けて継続的に作業の改善に結びつけていく手法です(図1)。

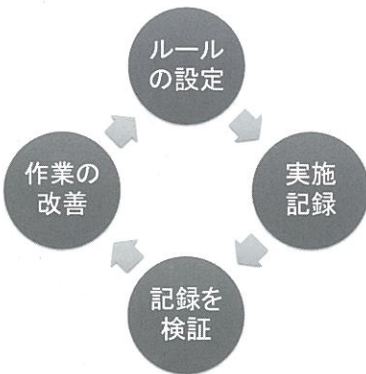


図1 「GAP」の手順

(二)「GAP」導入の目的は?

食品の安全性を揺るがす事件や事故が発生している中で、農産物の安全性を確保するために各農場に合わせたルールを設定し、実践していきます。導入することで、安全な農産物の供給と労働安全、農業経営の改善および持続可能な農業を实践することが目的です。

(三)「GAP」導入の効果は?

農業者や産地が導入することで、様々な効果が期待されます(表1)。

- ① 農薬の残留、病原微生物や重金属の付着・混入などをチェック・管理できる
- ② 記録をもとに、農作業の改善を行い、コスト低減・品質向上・農作業事故の回避につながる
- ③ 取り組みをPRすることで、農場や産地の評価が高まる
- ④ 廃棄物の処理やエネルギーの使用が改善され、環境の保全に役立つ

表1 「GAP」導入の効果

「GAP」の取り組みは農業者として実施すべきことをルールに沿って記録・検証・改善していくため、生産する農産物や産地の信頼性が向上します。

また、「GAP」に取り組むことで様々な効果が得られることから、農業経営を継続していく上で有効な手法と考えられます(図2)。

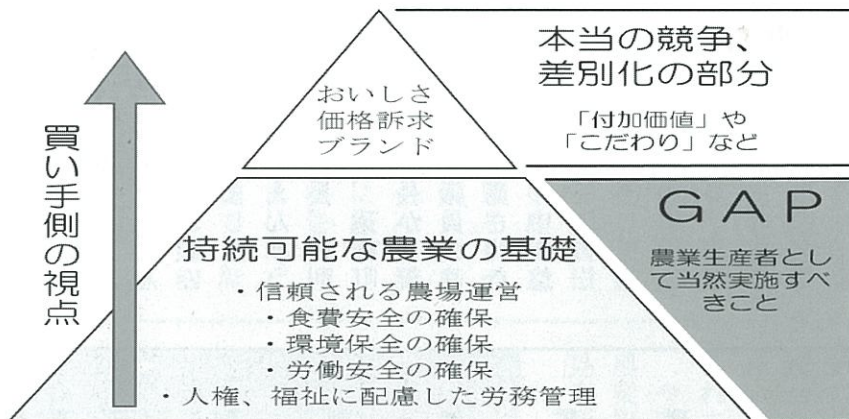


図2 農業生産における「GAP」の位置付け

◆今月の主な記事◆

- ◎上湧別地区の玉葱耕作者3戸がJ G A P 認証を取得しました
- ◎ J A 職員が J G A P 指導員資格を取得しました
- ◎「GAP」を知る No.1
- ◎ J A えんゆう青年部第19回定期総会開催
- ◎交通安全教室開催
- ◎白滝じゃが生産部会加工班が農山漁村男女共同参画推進協議会長賞を受賞
- ◎ J A 中央会・各連合会と青年部意見交換会
- ◎平成30年度採用職員紹介
- ◎各課紹介
- ◎平成29年度役員海外視察研修(後編)
- ◎ J A グループ通信
- ◎ J A 北海道大会実践フォーラムとパネルディスカッション
- ◎理事会のあらまし
- ◎人事異動のお知らせ
- ◎読者の声
- ◎クロスワードパズル
- ◎続・今こそ J A 第5回
- ◎安全確認の徹底で農作業事故ゼロ!
- ◎いもたま作造くん

JAえんゆう青年部 第19回定期総会開催

JAえんゆう青年部第19回定期総会は、3月22日にJA本所大会議室で部員35名が出席のも

と、各関係機関から来賓各位を迎えて開催しました。冒頭の開会挨拶で水野暁青年

を決める大切な場です。皆さんの活発な意見をよろしくお願い申し上げます」と述べました。

総会は、来賓のJAえんゆう

中川菊夫代表理事組合長、湧別町農政課岡崎公俊課長、遠軽町

農政林務課広瀬淳次課長から祝辞をいただき、衆議院議員の武

部新氏からの祝電が披露された後、上湧別北兵村一区の中川悠

一さんと湧別町北兵村三区の松浦慶太さんを議長に選出して議

事がすすめられ、平成29年度事業報告ならびに収支決算、平成

30年度事業計画ならびに収支予算、規約改正、役員改選の全提

出議案が滞りなく審議され、新たに湧別町北兵村三区の水野暁

さんを始めとする新役員体制が決まりました。

最後に、新役員からの就任挨拶、新しく青年部に加入した部

員の紹介と本人からの挨拶を受けたあとと盛会のうちに閉会となりました。

部長は、平成29年度のJA青年部活動を振り返り、農水省職員ファームステイ事業を始めとした青年部事業を部員ならびに関係団体各位のご理解とご協力のもと、滞りなく実施出来たことに謝意を述べたあと、「総会是一年間の総括であり、次の一年間の青年部事業

開会にあたりJA青年部綱領を全員で朗唱(上) 開会挨拶する水野暁部長(写真左円内)



◇新役員(敬称略)

部長

水野 暁 (湧別町北兵村三区)

副部長

福島 達也 (湧別町札富美)

副部長(会計兼務)

長谷川雄基 (湧別町上湧別屯田市街地)

代表監事

志鎌 英敏 (湧別町富美)

監事

村田 康則 (湧別町富美)

理事

板垣 亮司 (湧別町南兵村二区)

牧野 俊介 (湧別町北兵村一区)

小崎 光 (湧別町上湧別屯田市街地)

小倉 広嗣 (湧別町開盛)

斉藤 幸広 (湧別町富美)

箭内 優貴 (遠軽町美山)

上湧別支部長

渡辺 輝 (湧別町南兵村三区)

遠軽丸瀬布白滝生田原支部長

石山 貴博 (遠軽町清川)

落語で楽しく交通安全を学ぶ 交通安全教室開催

春を迎えて行楽などでの移動も多くなり、交通事故が多く起こりがちになることをうけて、「JAえんゆう・コスモスの郷ゆうゆう親睦会」と題しまして、JAえんゆう交通安全教室をコスモスの郷ゆうゆうで開催し、入居者を始めとした多数の出席者が受講して、交通安全を学びました。

最初に、遠軽警察署の永洞交通課長より、春以降に交通事故が発生しやすい状況やその対処などをわかりやすく教えていただきました。



交通安全落語を披露した落語家の三遊亭遊馬さん

その後、落語家の三遊亭遊馬さんが寄席に上がり、交通安全にちなんだ落語を披露しました。遊馬さんの軽快な落語に会場では笑いが起こり、事故防止に繋がる交通安全ルールを楽しく学ぶことが出来ました。

白滝じゃが生産部会加工班が農山漁村 男女共同参画推進協議会長賞を受賞

平成29年度農山漁村女性活躍表彰式（主催：未だ来農業DAYS実行委員会）が3月7日、東京大学安田講堂で開催され、白滝じゃが生産部会加工班が「じゃがりんピック」への取り組みで、女性地域社会参画部門の優良賞を受賞しました。

農山漁村女性活躍表彰は、日本国内で農林水産業に従事し、農山漁村地域の活性化に重要な役割を果たし、活動している女性個人団体を表彰するもので、今回は日本全国から選ばれた個人ならび



表彰を受ける白滝じゃが生産部会加工班の大久保真由美さん(右)

に団体19件がそれぞれ表彰され、白滝じゃが生産部会加工班を代表して大久保真由美さんが受賞式に出席し、表彰状を受け取りました。今後とも白滝じゃが生産部会加工班のさらなる活躍が期待されます。

活発な意見交換がおこなわれる JA中央会各連合会と青年部意見交換会

JAえんゆう青年部では、3月19日にJA本所大会議室で、JA中央会を始めとする各連合会とJA青年部および各専門部役員との意見交換会を開催し、活発な意見交換がおこなわれました。

この意見交換会は、協同組合の理念の確認と普段は直接話す機会が少ない中央会を始めとする各連合会役職者と青年部役員が意見を交換し、より良いJAを共に創り上げていくことを目的に開催されました。



JA中央会各連合会と青年部意見交換会の様子

今回は、JA北海道中央会北見支所、ホクレン農業協同組合連合会北見支所、JA北海道信連北見支所、全共連北海道北見支所、北見農協連から役職者が来席し、連合会のおこなっている業務などの説明、青年部から概況を話したのち、意見交換をおこないました。役員からも忌憚り無い意見が数多く寄せられ、短い時間ではありましたが有意義な会とすることが出来ました。

平成30年度 採用職員紹介

このたび、4月より男性2名、女性3名の新規採用職員が入組しました。今後とも組合員の皆さんの温かいご支援ご指導を賜りますようよろしくお願い申し上げます。

☆質問事項☆

- ① 生年月日・血液型
- ② 出身地・出身校
- ③ 特技・趣味
- ④ 自分の性格
- ⑤ JA職員としての抱負



経営相談対策室
矢原 一 恭
まさ はら かず やす 一 恭

- ① 平成7年4月24日・A型
- ② 遠軽町・釧路公立大学
- ③ 趣味…ドライブ（今後の趣味にしようと思っています）
特技…サッカー（ゴールキーパー一筋15年目のサッカー馬鹿です！）
- ④ 心配性
- ⑤ まだまだ未熟な部分があり、ご迷惑をお掛けするかもしれないですが、熱い気持ちを大切に一生懸命

頑張りますのでよろしくお願い申し上げます。



生田原支所 営農課
田澤 杏 梧
た ざわ きょう こ

- ① 平成10年12月27日・A型
- ② 遠軽町・遠軽高校・JAカレッジ卒業
- ③ 弓道、バスケット、スキー
- ④ 心配性、おせっかい
- ⑤ 新社会人としてJA職員として、私がすべきことたるべきことを明確にし実行する。失敗を恐れずチャレンジしていきたいと思いが、どうにかよろしくお願い申し上げます。



畜産課
内田 芽 衣
うち だ め い

- ① 平成10年2月3日・A型
- ② 出身地…本別町、出身校は帯広畜

産大学草地畜産専修

- ③ 基本多趣味です。今の趣味はドライブ、ペットと遊ぶこと、特技はよさこいやスポーツです。
- ④ マイペースです。よく「頭の中タインポ畑、ひまわり畑」と言われます。
- ⑤ 常に笑顔で、いざという時に頼られるような職員になれるよう、日々努力して仕事に励んでいきたいと思えます。よろしくお願い申し上げます。



管理課
門脇 梨 奈
かど わき り な

- ① 平成11年7月30日・A型
- ② 遠軽町・遠軽高校
- ③ 趣味は絵を描くことです。よくパソコンやスマホを使って描いています。特技はダンス（ヒップホップ）で7年ほど習っていました！
- ④ 私の性格は楽しいことが好きで、みんなが集まって食事をしたり、話したりすることも好きです。そしてもう一つ心配性です。
- ⑤ 今よりたくさん農協についての知

識をつけ、仕事をがんばっていきたいと思います。私は管理課なので、皆様に郵便物を運ぶなど関わる機会が多い方だと思いますので、良い仲を作っていけるようがんばります。早く仕事を覚えたいです。



金融課 金融推進係
本間 莉 子
ほん ま り こ

- ① 平成11年4月23日・A型
- ② 湧別町・湧別高校
- ③ 生け花とバンド
- ④ 明るく好奇心旺盛です！
- ⑤ 社会人、JA職員として自覚をしっかり持ち、少しでも早く仕事を覚えられるよう努力し勉強していきます。これからよろしく申し上げます。



各課紹介

組合員のみなさんに私たちJA職員
の顔と名前を憶えていただきたく、
2017年6月号からJA各課職員
の紹介も今月号で最終回になります。
今回は、(株)遠軽食品、スノー食品
工業㈱、全共連自動車損害センター、
および期中異動で紹介出来なかつた
農産課青果物センターです。

- ①年齢 ②業務内容 ③趣味・特技
- ④最近ハマっていること
- ⑤新しく始めたいこと

◆(株)遠軽食品

庄司 由明 (写真)

- ①60才
- ②南瓜生産、野菜冷凍加工販売
- ③プロ野球観戦、パチンコ、麻雀
- ④ポコポコゲーム
- ⑤特になし (時間が無い)



◆スノー食品工業(株)

高橋 昭 (写真右)

- ①66才
- ②スノー食品工業(株)業務全般
- ③釣り
- ④特になし
- ⑤特になし

塩野 雄一 (写真左)

- ①50才
- ②農産物の加工業務全般
- ③スポーツ観戦 (野球、バスケット)
- ④特になし
- ⑤ウォーキング



◆全共連自動車損害センター

井上 富昭 (写真)

- ①45才
- ②自動車共済、事故処理 (なので、小職とやり取りが無いように交通事故は気を付けましょう)
- ③毎日の晩酌
- ④CDの聞き直し (20〜30年前に購入のものを通勤時間を利用して)
- ⑤特にありません



◆農産課青果物センター

渡辺 勝則 (写真)

- ①58才
- ②青果物センター業務
- ③ツーリング、ドライブ、温泉巡り
- ④軽自動車ドライブ
- ⑤登山、テニス



出会い、暮らし、思い出。そして、別れ・・・。

人生最後の葬祭の儀式。

それは故人の哀悼の念を捧げる厳粛な場ではなくてはなりません。

えんがる斎場は、突然に訪れた予告のない儀式をつつがなく執り行うため、悲しみに暮れるご遺族に、最良の方法と、こまやかな心くばりでご奉仕いたします。

個人葬をはじめ、多くのご会葬の方々をお迎えする大規模な社葬、団体葬など、宗教・宗派を問わず、最新の設備で、葬祭に関するすべてのことをお手伝いさせていただきます。



〒099-0401 北海道紋別郡遠軽町学田2丁目6番地1

TEL (0158) 42-9898

FAX (0158) 42-9933

視察実施日時 平成29年12月5日
 平成29年12月13日(9日間)

報告者 理事 高橋敬貴

本年度の役員視察研修は、農業大国であるニュージーランドの農業情勢を研修目的に、役員7名(半数)、随行職員2名、合計9名で視察した生産現場の状況を報告させていただきます。

③ サザンベル・オーチャード
 果樹、野菜栽培農家

(Southern Belle Orchard)

この農場は、2003年にオランダ国から夫妻で移住して開業した農場で、オーナーは過去に農業研究所で27年間働いた経験があります。

2棟で3200m²のグリーン(プラスチック)ハウスでオーガニック農法を取り入れて、主にパプリカを栽培。生産物は、全て国内消費向けとのこと。栽培管理では、グリーンハウスの天井には透明ではなく、白いプラスチック資材を使うことで乱



反射を起こさせ、ハウス内の植物全体に光を当てる。植物の根の部分に特殊温水管を通して地面からも加温し、かつ、地下には水耕栽培(ハイドロポニックス

テム)施設を備えて、肥料成分を混合させた水を循環させる精密な管理をおこなっていました。これらは国から補助金を受領したとのこと。

農場の基本方針として、当農場が出荷するオーガニック野菜品種はニュージーランド国内では他に存在しないことから、良品維持とオーガニック農法継続により差別化を継続する方針とのことでした。

また、3haの農園では17種類のフイジオア(日本には出回り無し)果物栽培。出荷先はニュージーランド国内市場が多いが、輸出にも力を入れており、受粉は、鳥や蜂に頼っている。果物の樹齢は、5〜12年位であるが、果実の収穫作業効率を優先させるために、樹木1本毎の大きさを剪定によって整えることで、近所からのパート雇用の労働時間短縮に賃金抑制へと費用対効果を最優先させているとのことでした。

④ マルフオナ・ファーム
 企業型大規模酪農場

(Marfona Farms)

1983年に家族経営で現在の地へ入植し、年々規模拡大によって成長を続けている農場で、農地は約2000haすべてで放牧酪農をおこなっています。また、農場敷地内に乳業会社グリーンバレーデイルーを創業させており、乳製品加工業(六次産業化)を取り入れることにより、自社の生乳生産から生乳仕入加工↓乳製品販売までの生産製品体系を内



部で完結させる取り組みが、マルフオナ・ファームの基本方針とのこと。

また、当農場は、国からオーガニック認定を受けており、当農場全体の生乳生産割合の75%は、オーガニックミルク(有機牛乳)を1500haの放牧地で生産しています。牛乳単価が約2割高く商品の差別化を目的としており、国内で高い支持を得ていることから国内流通量の95%を占めるトップブランドとして定着しています。その他この農場の詳細としては以下に記します。

- 経産牛2500頭前後。乳牛1頭当年間乳量4000kg程度。脂肪分4.4%。乳牛平均出産回数6〜8産。生乳殺菌は74℃で22秒、中国へ毎日4万リットル輸出している。
- 給与飼料は牧草のみであるがサイレージも放牧地に置く。ハーベスター作業は業者委託。
- 搾乳場所は、3つ建物あり、各々1日2回搾乳している。
- 1 1200頭規模 50頭が入れるロータリー型(8人のスタッフで運営)
- 2 800頭規模 50頭が入れる

- 3 1200頭規模 20頭が入れるヘリンボーン型(2人のスタッフで運営)
- 会社全体の雇用者は約100名(うち、牧場担当36名、うち女性1/3)。

■ ニュージーランド視察研修を終えて

今回の研修を振り返りますと出発当日、成田空港からニュージーランド国際線出発時刻が遅れ、空港で4時間待機から始まりましたが、現地へ到着してからは、天候に恵まれ日本の7倍程の強い紫外線の中、計画のとおり研修を終了することができました。

ニュージーランド農業情勢の感じたことは、恵まれた気候条件を活かし、国の補助政策に頼らず生産コスト抑制によって、生産効率を最重点として農業経営を展開していることでした。

しかし、生乳生産量に対して、国内市場が小さく乳製品は、輸出に依存していることから、相手先の国々との関係によって、大きな経済影響を受けやすい部分を抱えている農業大国であることを認識しました。今回、役員の皆様と研修を通じて親睦を図ることができ、この研修で得たものを地域農業発展のために活かしていきたいと存じるとともに、今回この様な研修の機会を与えていただいたことに感謝申し上げ、役員海外視察研修の報告とさせていただきます。

JAグループ通信

JAグループの連合会・中央会の活動内容を紹介します。

JA北海道大会決議事項の実践やその時々
のトピックスなど、組合員の皆様に定期的
にお伝えします。

各団体の詳しい取り組み内容はWEBサイ
トをご覧ください。

JA北海道中央会



2月に、児童養護施設との調理実習体験
「おとなの食育」を開催しました。興正こど
も家庭支援センターと共催し今回で5回目。

高校卒業後一人暮らしをしても規則正しい
食生活を送ってほしいという趣旨で実施して
います。前半は札幌消費者協会札幌ポトフの
会の吉田講師より、身体
に必要な栄養素や食品選
びの考え方を学び、後半
は料理教室を開催。参加
児童は「調理方法など、
わからないことをすべて
とても良い機会だった。」
と感謝の気持ちを話して
くれました。



JA北海道信連



JAバンクを広く知ってもらおうと、3月
の札幌ドームでのファイターズとの試合にブ
ースを出展しました。

当日は、春のキャンペーンへ応募された方
にちよりグッズを、JAバンクのアンケー
トに回答された方に試合の観戦チケットを抽
選で贈呈する等、JAバンク
のPRに取り組みました。

今後も、様々なスポーツと
の連携・支援等を通じて、J
Aバンクのファンづくりに向
けて取組んで参ります。



ホクレン



社会・地域貢献活動「シ
ーズプロジェクト」の一環



として、興正こども家庭支援センターとの共
催で、児童養護施設などを巣立つ高校生たち
を対象に「おとなの食育」もつと牛乳を飲も
う！マナー講座」をホテルオークラ札幌で開
催しました。北海道の酪農、牛乳・乳製品に
ついてや、ナイフやフォークの使い方など基
本的なマナーを学びました。（この取り組み
は、2014年から継続して実施しており、
今年で5回目になります。）

JA共済連北海道



数多く実施している地域貢献活動を広く知
ってもらえるよう、ロゴマークを制作しまし
た。ロゴマークに描かれた日本地図とそこか
ら生える新芽には、全国各地の活動が地域に
根付くようにという想いが込められ、手を取
り合いながら歩く「貢献」の文字は地域の皆
さまとJA共済が支え合う姿をイメージして
います。JA共済が展
開する地域貢献活動は
WEBサイト「ちいき
のきずな」で紹介して
おります。



JA北海道厚生連



組合員ならびに地域住
民の皆様の生命と健康を
守るため、本会事業の積
極的な啓蒙推進を図るこ
とを目的として、広報誌
「すまいる」を発行して
おります。年3回発行し
ており、様々な医療・健
康情報を発信しております。



ホームページにもバックナンバーを掲載し
ておりますので、是非ご一読ください。

J A北海道大会実践フォーラム パネルディスカッション テーマ「食と農でつながる550万人サ ポーターづくりと准組合員制度 について」

「食と農でつながる550万人サポーターづくりと准組合員制度について」と題したパネルディスカッションの内容を3回シリーズでご紹介します。



宮入 隆 氏

北海学園大学 教授

ご紹介頂きました宮入です。昨年度に引き続きとなるサポーター550万人づくりに加え、今年は准組合員制度もテーマです。准組合員の問題は喫緊の課題ですが、これだけ公の場で議論するのは、北海道では初めてかと思えます。今日は利用規制の話や、准組合員の方々と地域との関わりについて議論し、実践活動に繋がりたいです。まずパネリストの皆様から自己紹介と今日の意気込みをお願いします。

森 久美子 氏

作家 農水省食料・農業・農村政策審議会臨時委員

ご紹介頂きました森久美子です。道民の中には北海道農業は自立しているか



ら、支えなくて大丈夫という誤解があるのではないかと思います。北海道農業は、道民の方々により意識的に支えてもらわなければならないと思いますので、その点を准組合員制度と絡めてお話ししたいと思います。私は共済の利用がきっかけで、JAさっぽろの准組合員ですので、その視点からお話したいです。よろしくお願い致します。

金井 憧れ 氏

アナウンサー
キャスト・プラス所属

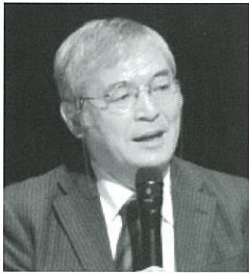
みなさんこんにちは。ご紹介頂きました金井憧れと申します。現在は東京でフリーアナウンサーとして活動しておりますが、今年3月までHBC北海道放送に所属し、「あぐり王国北海道NEXT」という番組を担当しておりました。あぐり王国では毎週全道各地の農家さんにお世話になりました。たくさんの方の田畑に行き、触れて、感じて、大好きになった北海道の農業に一人でも多くのファンが増えるよう発信したいです。今日はよろしくお願いします。



ご紹介頂きました山口敏文は、北海道生協連の山口です。現在は非常勤の副会長です。ので地元の芽室町に戻ってまして、300坪弱の小さな農園で野菜をつくっております。今日はJAと生協が一緒に何かできないかという点を中

山口 敏文 氏

北海道生活協同組合連合会
副会長（事例発表者）



ご紹介頂きました宮崎俊章は、JAひがしかわの参事（事例発表者）です。ご紹介頂きましたJAひがしかわの参事（事例発表者）です。今日はお越しの皆さんの依頼を受けましたけれども、今日お越しの皆さんもそれぞれの地区で色々な取組みをやっているかと思えます。私たちが特別ということではないと思えますが、後程事例として発表しますので、どうぞよろしくお願いします。

宮崎 俊章 氏

JAひがしかわ 参事
（事例発表者）



ご紹介頂きました高橋和則は、中央会の高橋と申します。北海道大会の実践支援の担当部署、さらには550万人サポーターづくりの担当部署を所管しております。今日はどうぞよろしくお願い致します。

高橋 和則 氏

JA北海道中央会
参事



ご紹介頂きました宮入隆は、北海学園大学の教授です。ご紹介頂きました宮入隆は、北海学園大学の教授です。ご紹介頂きました宮入隆は、北海学園大学の教授です。

ご紹介頂きました宮崎俊章は、JAひがしかわの参事（事例発表者）です。ご紹介頂きました宮崎俊章は、JAひがしかわの参事（事例発表者）です。

ご紹介頂きました山口敏文は、北海道生協連の山口です。現在は非常勤の副会長です。ご紹介頂きました山口敏文は、北海道生協連の山口です。

森氏 事例発表を聞いて私

は、都市と農村の格差が進んでいると思いました。これは農村が下という意味ではなく、全く逆です。特に食育では、ゆとり教育が廃止



され、田植えなどの農業体験をする時間が削減されました。今の札幌の児童たちは農業体験をできる機会が少ない、これはつまり都市では農業の理解者がどんどん減っているかもしれないということです。

宮崎参事と山口副会長のお話で共通して良いなと思ったのが移動販売車です。移動販売車の役割を実感した一つの経験として、以前道南でAコープさんの移動販売車を見学した時、ある家のおばあちゃんが、髪の毛を整えて、よそ行きの服を着て家から出て来られました。女性たちにとっては人と触れ合いながら、自分たちのお金で買い物をするということは、すごく意味があるのだと思います。

農村も都市も今、単身世帯や夫婦だけの世帯といった2人以下の世帯が多い中、JAがどんなにたくさんおいしいものをつくっても、たくさん買って頂けなくなってきました。食べるのに丁度いい量を買えるといった売り方を、家の近くに来てやってくれたらみんな買うのではないかと思いません。そういった取り組みの重要性をお二人の事

例から感じました。

宮入教授 世帯や食卓の状況までイメージしながら付き合っていくことは重要ですね。金井さんはあぐり王国で全道各地の農協さんにも行かれた経験があると思いますが。



金井氏 東川にはあぐり王国北海道でもお邪魔したことがあり、すごく楽しい口ケでした。私は今年26歳になりますが、同世代の友人は、みんなインスタグラムという写真投稿アプリを使っていて、どこか行くくとすぐに写真を撮って、加工して発信しています。北海道の農産物は加工しなくてもきれいで、写真映えるのに、何でもつと発信しないのだからと思います。作られた農産物をそのまま1枚でもいいから写真に撮って発信して頂けたら、影響がすごくあるのではないのでしょうか。

また、私が東京に戻り改めて感じるのは、都内には北海道農業に興味を持つきっかけがほとんどないということです。東京の直売所マップを開いても、23区内には直売所が一つも無く、周りにいる都内の友人も、全くきっかけが無いので、興味を持つこともできません。北海道農業は少しでも触れたり食べたりしたら、その魅力がすぐに感

じて頂けるパワー持っていると思うので、少しでもそのきっかけを増やしてほしいです。

宮入教授 お二人の話から、北海道の良い素材を都市部にいる若い人にどう伝えていくのかというところまで見据えてサポーターづくりを考えることの必要性を感じました。

山口さんはJAひがしかわさんとも色々な形で連携されていると思います。改めて今日の発表を聞いていかがでしたか。



山口副会長 JAひがしかわとは長い付き合いですが、話を聞いてこんなこともやっているのかと改めて感心致しました。これらの取り組みも私たちの組合員と一緒にやればもっとたくさんさんの参加があると思います。地域の農協さんも色々なイベントをやっておられますが、単独で何かをやるという時代から、仲間と一緒にやるということがすごく大事な時期にきています。今日集まって頂いている農協のリーダーの皆様が今後どういう戦略を打ち出すかと言う時に、僕はその部分がサポーターづくりの方向性を固める上で必要かと思えます。

理事会のあらまし

第2回理事会

(平成30年3月26日)

◇報告事項

1. 決算監査の結果について
2. 経済委員会開催結果について
3. 職員の退職、異動及び採用について
4. 地区別懇談会の開催について
5. 平成29年度経営定期点検の結果について
6. 信用事業規定に基づく定款第52条第9号の貸付先の経営状況報告について
7. 組合員の異動について
8. シルバー世代向け交通安全教室の開催結果について
9. その他

◇議案

1. 「独立監査人の監査報告書」及び全国監査機構決算監査結果について
2. 原案通り承認されました
3. 平成30年度事業計画の設定について

4. 原案通り承認されました
5. 第19回通常総会招集通知について
6. 平成30年度の余裕金運用について
7. 組合員規程の一部改正について
8. 信用の供与等の限度額の設定について
9. 原案通り承認されました
10. 不良債権処理方針について
11. 理事に対する資金の貸付について
12. 原案通り承認されました
13. 善状況等報告について(29年6月受検)
14. 原案通り承認されました

人事異動のお知らせ

左記の通り、人事異動がありましたのでお知らせいたします。(順不同)

(4月1日付)

石田 佳宏

金融課長補佐



金融課長

中津川 恵輔

畜産課 生産振興係



農産課 青果物センター係



読者の声

クロスワード当選者賞のカレーが届きました。美味しく食べました。ありがとうございます。

(匿名)

美味しく食べていただけで何よりです。今後もよろしくお願い申し上げます。

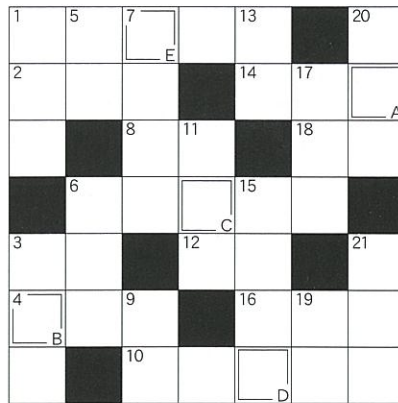


やっと温度が上がってきて、ビートの芽が出そろいました。でも朝晩はまだ冷え込みが厳しいですね。でも、春は確実に近づいていますね。

(匿名)

今年の冬は寒さ厳しかったです。思った以上に春の足音が早く来ますね。皆さんの農作業が順調に進むことを祈念します。

プレゼント付きクロスワードパズル



A	B	C	D	E

3月号の答えは「タケノコ」でした。今年春は春が早いですね。農作業事故に留意願います。当選者は下記の方々です。

湧別町南兵村三区 加藤 希望さん
 遠軽町寿町 齊藤 邦隆さん
 遠軽町生田原八重 西原 弘子さん

～応募方法～

応募用紙に答え・住所・氏名を明記し、身近な話題・変わった出来事等を書き添えてFAXにてご応募下さい。正解者の中から抽選で毎月3名の方に、粗品をプレゼント致します。

締め切り 4月25日(水)

タテのカギ

- 1 てこには——・力点・作用点があります
- 3 5月5日は——の日。国民の祝日です
- 5 父や母の兄弟です
- 6 川の流れの急な所
- 7 別名は虞美人草、ポピー
- 9 日本庭園だとコイが泳いでいることも
- 11 刃物で紙に描きます
- 13 生物や化学を学ぶ教科
- 15 無地ではない衣服
- 17 バイオリンや笛のこと
- 19 鳥よけに張ることもあります
- 20 唱歌『春の小川』の歌詞に出てくる花
- 21 レイシとも呼ばれる果物

ヨコのカギ

- 1 潮の引いた浜で貝を探します
- 2 マジシャンが披露するもの
- 3 ストリー夫人の著書『アンクル・トムの——』
- 4 輪のある惑星として知られています
- 6 急いで記した文字のこと
- 8 野球部の監督が選手に——を飛ばした
- 10 動物がよく通る所にできます
- 12 魚やイカの呼吸器官
- 14 化粧をするときにのぞきます
- 16 イースター島の巨大な石像
- 18 同伴者のこと

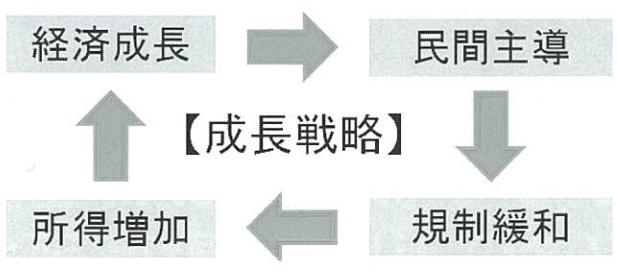
～続・今こそJA～ 【第5回】アベノミクスと規制改革

平成24年12月、第二次安倍内閣が発足しました。そこで掲げられた経済政策を「アベノミクス」と呼んでいます。アベノミクスは「3本の矢」という大きな柱から成り立っており、その中でも重点を置いているのが「民間投資を喚起する成長戦略」という項目です。これは経済成長を民間の力で進めること、そのためには自由競争の障害となる規制を取り払っていかうという、いわゆる「規制改革」という考え方が根底にあります。

その規制改革を進めるための組織として安倍総理は平成25年1月に「規制改革会議」を設置しました。この会議は民間有識者と呼ばれる人々で構成され、安倍総理は規制改革会議に規制改革についての意見を求め、規制改革会議は審議した結果を安倍総理に答申します。これを受けて政府は成長戦略に関する方針を決定し、次年度の予算編成や法律改正を進めることとなります。その後、規制改革会議は規制改革推進会議と名前を改めて現在に至っています。規制改革推進会議には具

体的な作業を行ういくつかのワーキンググループがあり、農業に関する有識者とされる11人で構成されるワーキンググループが設置されています。そのメンバーは大学教授、民間企業の代表者、農業法人代表者などですが、農協関係者は1人も入っていません。国民の信託を受けない者が政策決定に向けて発言し、農協関係者を入れずに農協をどう変えていくかを議論しているというおかしな流れになっています。

【第2次安倍内閣の経済政策(アベノミクス)のイメージ図】



安全確認の徹底で 農作業事故ゼロ！



春を迎えて、まもなく畑起こしや肥料散布、農作物の植付けなど、農業機械を使った作業が始まりますが、例年、農作業事故が増える時期です。

家族や仲間で声掛け合い、安全確認を徹底して、今日も「事故ゼロ」で家族が待つ食卓に帰りましょう！

発行日 平成30年4月10日
編集行 えんゆう農業協同組合
印刷 営農課 営農企画係
株式会社 岡田印刷
中川 菊夫

〒099-6501 北海道紋別郡湧別町上湧別 屯田市街地230番地
TEL 01586-2-2161 / FAX 01586-2-4797
ホームページ http://www.ja-enyu.com
メールアドレス kikaku@ja-enyu.com



第213話 ぞだねー！
いもたま作造くん

